

ともに

「わたしはあなたと共にいる」
—イザヤ書43章5節—

部会だより

キリスト教
保育連盟
神奈川部会

2025年12月3日
第146号



「おかえり、 いってらっしゃい」

戸塚ルーテル教会附属幼稚園
園長 清水 臣



ある日、卒園生のAちゃんから、出演するヴァイオリンコンサートのご案内をいただき、卒園以来の再会でした。幼稚園の年少さんから習い始めて、今やプロのヴァイオリニストです。その時は留学先からの一時帰国でした。完全帰国の際に、教会学校のクリスマス礼拝でのコンサートをお願いして、快諾してくれました。仲間を募って、素敵な弦楽四重奏を披露してくれました。

◆ 聖句 ◆

ですから、大切なのは、
植える者でも水を注ぐ者でもなく、
成長させてくださる神様です。

コリント人への手紙 第一
3章7節

これに味を占めた私は、元保護者で教会員のお子さんのSちゃんが、ベリダンズのレッスンを受けていることを知らされていたので、教会学校の夏のデイキャンプで、ダンス披露をお願いしました。これまた快諾してくれました。仲間の皆さんとチームを組んで、貴重な異文化体験を与えてくれました。大学の卒論では、クルド人をテーマにしていたそうなので、幼稚園時代からの、彼女らしさも伺えました。

また、ある年の地域の春祭りで、元保護者の方に、久しぶりに出会いました。お子さんと、卒園生のRちゃんのことをお聞きしたところ、今、ラッパになっていくとのことでした。教会学校のサマーコンサートへの、出演の可能性をお聞きして、後日、彼の出演が実現しました。あの怖がりだったRちゃんが、今や、5万人の聴衆の前でも、歌っているとお聞きして、まさに「成長させてくださった神」を思わずにはいられませんでした。

音楽との関りはイメージ出来なかったので、フルートとの出会いを聞きました。自分でも、音楽の賜物は意識していなかったけれども、折々の人々との出会いの中で、この道に促されて行ったとのことでした。

ここには4名の紹介でしたが、全ての卒園生には、それぞれに、私には知り得ない、色々な賜物も与えられていて、育まれて行っているんだと、改めて実感させられました。全ての卒園生に、エールを送り続けます。

おかえり、いってらっしゃい！



「みんなでお礼拝」

心が満たされる保育

—子どもも大人も育ち合う—



互いに愛し合おう

霞ヶ丘幼稚園

園長 松下信

聖句「私があなたがたを愛したように、
あなたがたも互いに愛し合いなさい」

—ヨハネによる福音書13章34節

主の御名を賛美致します。私は
2023年4月から霞ヶ丘幼稚園の
園長を務めさせていただいております。
以前は、横浜市金沢区の日本同
盟基督教団横浜白山道教会で42年間
牧師として働いてまいりました。園長
としての働きは初めてであり、毎日
失敗の連続です。皆様のご指導を賜
りますようお願い申し上げます。

当幼稚園の特徴は、園児が良く遊
び、喜び楽しんで生活していること
です。天候が許されれば、園庭に飛
び出して様々な遊びを楽しんでいま
す。子どもたちは、遊びをとおして
様々なことを学んでいます。遊びの
方法から始まり、人間関係における
ルールに至るまで、生きるための知恵
を蓄えています。



「イエスさまに祝福されて嬉しいな」

職員が語りかける二つ二つの言葉や
接するときの態度が園児に多大な影
響を与えていると思います。職員は互
いに違う存在であることを認めた上
で、心を一つにして保育に当たっていま
す。たとえ失敗したとしても、赦し合
える環境であれば、皆が救われるので
す。職員が互いに愛し合うことを学び、
そうあるうと心掛けることは人間関
係を円滑にします。職員のあり様がそ
のまま園児に影響を及ぼし、子どもた
ちがやさしい子に育つてくれるなら、
このことは大きな主の恵みです。
毎日様々なトラブルや問題を抱え、
今後も深刻な課題と向き合っている
職場ではありますが、主の導きを信じ、
希望を抱いて、一步一步前進させてい
ていきたいと願っております。

心が満たされる保育

めぐみの幼稚園

主任 秋山宏美

自園は、1学年1クラスの小きな幼
稚園です。日々の保育の始まりを保育
者と共に聖書を読み、祈りと賛美の祈
禱会を守ることで気持ちを整え、子ど
もたちを迎えています。

今年度、私は年長児クラスを担当
し、自我の強い子どもたちが、多数集
まったクラスを、毎日子どもたちのこ
とを観察しながらあそびを深められ
るように関わり、子どもたちが主体と
なる保育を心がけています。

3年間クラス替えない環境は、仲
が深まり良いところもたくさんあり
ますが、反面難しさもあります。今
年長児の学年は、クラスが荒れたまま
最終学年への時が経ってしまいました。
ここまで保育者間で、子どもたちの育
ちを考え、どのように関わるのがよい
のかや、補助の保育者をお願いして子
どもの主体性を大事に考えながら個
性に合わせた関わりを重視するなど
の関わり方を一緒に考えながら一人ひ
とりを見守ってきました。

様々な研修会では、先生の考えを傾
聴して学びを深め、研修後に、「あの子
どもには、この考えが合うのではない
か」と保育者間で共有をし、気持ち

向かない子どもにクラス活動へ無理に
入れなくても、子どもの気持ちを尊重
し自分で活動に入りたくなったらク
ラスに入ることを実践してみたりも
しました。どのような時でも保育者間
で、あふれている子どもたちに言葉を
かけ、やりたいことを最後までやりき
るまで見守り、子どもの気持ちを受け
入れる体制を続けてみました。

しばらくすると、子どもたちが変わ
ってきたように思えました。あふれて
いた子どもたちが、自ら参加をするよ
うになってきたのです。そこまで行
きつくには、様々な要素が関連したと
思います。子どもの心の育ちであつた
り、友だちの影響であつたり、クラスの
雰囲気や、保育者たちの関わり。そう
いった子どもたちの周りにあるすべて
の環境が、満たされたときに、子どもた
ちの心が動くのではないかと思いました。

子どもたちの心が満たされる保育
を考えると、子どもを中心に考えた環
境作り、子どもが思いきり自分を表現
できる場所があること、豊かな自然の
中で子どもたちが、自然の美しさや不
思議さを感じながら、一人ひとりの子
どもたちが、心ゆくまであそび満たさ
れて育つことが大切なのではないかと
思います。子どもたち一人ひとりが大
事にされる保育を繋げていきたいです。



夏期講習会をうけて

宮の台幼稚園

園長 畠義信

夏期講習会(2025年8月19日)

○場所 清水ヶ丘教会礼拝堂

○テーマ 心が満たされる保育

～子どもも大人も育ち合う～

○講師 久保健太先生(大妻女子大学)

今年度のキ保連夏期講習会に参加し、久保健太先生のお話を同じ空間でお聞きする機会を与えられた事に感謝致します。

「子どもも大人も育ち合う、心が満たされる保育」の講演で、難しいけど面白いという相反する感覚が同時に起きる時、人は楽しい！一緒に笑って楽しんだ記憶となっていくという話を聞かせていただきました。

ちょうどこの研修の前に幼稚園で1匹のかまきりが扉の上の方にくっついているのを見つけ、そばにいた1人の女の子に「かまきりがあの上の方にいるんだよ」と伝えると、女の子はすぐに虫獲りの好きな男の子を呼んできました。

2人はかまきりは威嚇してくる事も知っている様子で、扉の上にいるかまきりが自分の頭の上に落ちてこ

ないか慎重に身を避けながら網で狙う…を2、3回繰り返していました。獲れない度に自分に落ちてきたら怖いな…という感覚が伝わってきて「怖い」けど「捕まえない」。

この研修のお話ととてもリンクして思い出したエピソードでした。

その後は無事にかまきりを捕まえ、2人は目を合わせ、やった！の表情。

2人の中に「怖い」けど「捕まえたい」という相反する気持ちだが、「難しいけど楽しかった！」にかわり、「一緒に笑って楽しんだ記憶になっていく場面」に私自身が出会え、今回の講演と重なりました。何げない小さな日常のエピソードが自分の中で深まり、子どもも保育者も共に響き合いつながりながら今後も過ごしていきたいと思えます。



「イエスさま病気をなおしてください」

「新しい主体性」との出会い

鶴沼めぐみルーテル幼稚園

園長 加部公子

青空に白い雲、心地良い朝に、年少組が2人、園庭の隅でコロコロ寝転がったり、じつと空を見たり。雨の朝には、小さな長靴を履いて深い水溜まりに、はじめはそーっと、そのうちにジャボジャボ入って歩いている。集まる時間になるけれど「かわいいなあ、満足するまでさせてあげたい…」。

保育に携わり長い年月が過ぎて、ここ数年「こういう姿をそっと見守りたい」「職場で共有できたら」と思いながら、私にはその大切さの意味を説明できないもどかしさがありました。

ですから、久保健太先生のご講演に、探していたものが見つかったような喜びを感じました。

特に「新しい主体性」について。

子どもたちが自然や環境に出会い生かされていることに満たされて「なんかいい」「なんかやだ」「冷たいけどきもちいい」「たのしい」「むずかしい」「のぼりたい」「こわい」といった感覚がさまざまに湧き出る「感じる主体性」。

頭を使って考えて行動する、これまで重視された「考える主体性」と同様に、これも主体性としたい、というお話

にとでも納得しました。

この主体性の中で、子どもたちが体験する、神聖なものに吸い込まれ、飲み込まれ、包み込まれる感覚。「人間を超えた出来事」の力を借りながら子どもたちが神聖なものを自分で見つけてくること等、それは、神さまと子どもたちの出会いでもあるようにワクワクしました。

ダイナミックに発達段階を捉えながら、日々の子どもの声やかかわりを細やかに受け止め、こどもたちの中に何が育っているか、何を育てようとするのか。先生のお話と事例のご提示に勉強不足を実感しながら、さまざまな要素が交錯する保育の奥深さを思いました。

猛暑が続いた夏の終盤に、部会の皆様と集い、祈り、学びを分かち合う時に恵まれ感謝です。開催スタッフ、役員の皆様ありがとうございました。



「子どもを祝福するイエスさま」

役員会報告

書記 酒井 大志



◆神奈川部会総会

4月15日(火)午後3時より清水ヶ丘教会ミッショントンホールにて行われ、2024年度事業報告ならびに決算が承認され、2025年度計画案ならびに予算が承認されました。
出席25園・参加者35名、1校・1名
委任状9園・15名、書面評決7園・9名

◆役員会

4月15日(火)清水ヶ丘教会にて、
4月30日(水)野毛山キリストの教会にて、
6月4日(水)清水ヶ丘教会にて、
7月1日(火)清水ヶ丘教会にて、
8月19日(火)清水ヶ丘教会にて開催されました。
役員会にて、4月15日(火)に開催された2025年度総会議事録を承認いたしました。

◆役員紹介

役員改選により、11名(留任6名・新任5名)が役員に就任しました。

◎ 部長

中島聡 (白百合光の子幼稚園)

◎ 副部長

佐竹和平 (ドレーパー記念幼稚園)

宮川周子 (横浜本牧教会附属早苗幼稚園)

◎ 会計

岡野きよみ (認定こども園捜真幼稚園)

小高千恵 (桜ヶ丘幼稚園)

◎ 書記

酒井大志 (野毛山幼稚園)

西村真 (認定こども園高座みどり幼稚園)

◎ 監事

永瀬真澄 (東洋英和女学院大学付属かえり幼稚園)

仲程剛 (認定こども園関東学院のびのびのば園)

◎ プロジェクト委員会

岡田直美 (横浜英和幼稚園)

鈴木直江 (認定こども園関東学院六浦こども園)

◆新任歓迎会

4月30日(水)野毛山幼稚園野毛山キリストの教会礼拝堂にて行なわれました。礼拝では清水臣牧師(戸塚ルーテル教会)より説教をいただき、礼拝の後、河村広子先生(戸塚ルーテル教会附属幼稚園)から新任の皆さんへ歓迎と励ましのメッセージがありました。
21園・63名参加。



◆第1回講演会

6月4日(水)清水ヶ丘教会礼拝堂にて、寺田千栄先生(認定こども園)捜真幼稚園園長)より「キリスト教保育ってどんな保育?」というテーマでご講演いただきました。34園・95名参加。

◆夏期講習会

8月19日(火)清水ヶ丘教会にて行われました。全体礼拝ののち、永年勤続表彰 久保健太先生(大妻女子大学専任講師)より「心が満たされる保育ー子どもも大人も育ち合うー」というテーマでご講演いただきました。
39園・149名参加。

◆第2回講演会

11月19日(水)清水ヶ丘教会にて行われました。岡崎一実先生(関東学院小学校校長)より「キリスト教小学校からみた幼児教育」小学校でどんな子が伸びるか/幼児期にどのような力を育んでおきたいか」というテーマでご講演いただきました。
21園・70名参加。

◆クリスマス礼拝

- ・ 12月3日(水)清水ヶ丘教会にて
- ・ クリスマスメッセージ
- ・ 伊藤多香子先生(関東学院宗教主任)担当
- ・ 高見保育園
- ・ 片瀬のぞみ幼稚園

各園からのクリスマス献金のお送り先につきましては、後日ご報告いたします。

編集後記

どこの園も主イエスさまのご降誕…クリスマスの準備をしておられることと思います。「暗闇の中を歩む民は大いなる光を見た…」《光》として生まれてくださったイエスさまはいつも私たちのそばにいて導いてくださっています。真っ暗な中に光が見えるとほっとします。周りが暗ければ暗いほどその光は明るく感じます。《光》は私たちの進む道を照らして案内をし、危険を知らせてくれます。闇の多い現代、しっかりと軸がないとぶれてしまいます。キリスト教保育に携わる私たちは、どのような時も希望を持ってイエスさまの示す道を進んでいき、心満たされた日々を過ごしてまいりましょう。部会だより146号発行にあたり、お忙しい中ご協力くださいました先生方に心から感謝いたします。



◇発行日 2025年12月3日

◇編集者 神奈川部会 広報担当
野毛山幼稚園
関東学院六浦こども園

◇デザイン EL DESIGN STUDIO

◇イラスト提供 野毛山幼稚園